

## 多言語で世界につながろう

年々、日本にやってくる外国の方が増えています。そんな国際色豊かな生活へ向かっている今、子供たちが英語だけでなく、それぞれの国の人のことばでコミュニケーションがとれたら、どんなに豊かで楽しいでしょうか？

しかし、私たち大人は、ことばを勉強するのは「難しい」と思っていないですか？

赤ちゃんを見てみると、どこに生まれた赤ちゃんも、環境に飛び交うことばを自然に話せるようになります。日本語が話されている環境では日本語を、複数の言葉が話されている環境では、いくつものことばを話せるようになるのが「あたりまえ」。ことばは本来そのようなものです。

いくつものことばを話す＝多言語を話す、とは多様なものを受け入れると同時に自分の世界を広げていくこと。どんなことばにも人にも開かれた心が育ちます。ぜひ、ご家族でもお一人でも「多言語の環境」に出会いにお出かけください。人工知能・AIにないものは、人間の「想像力」。ことばとは、手段でも目的でもなく、人間と人間の間の想像力から生まれるものなのです。

### 当日のプログラム

- ★多言語活動の紹介
- ★世界のいろいろなことばにふれよう
- ★講師による講演（5日、16日）
- ★グループで懇談会

### 参加した方の感想

私は今まで、外国は怖い言葉も難しいと思っていました。でも、話を聞いて実際に真似してみることで話せて本当にうれしかったです。  
(小学5年)

私は初めて聞く言葉に戸惑ったのですが、たくさんの言葉のあふれる中でも、子どもたちは吸収が早いようでした。帰ったらさっそく、親子で地球儀をガラガラとまわしてみます。(5,3,1才の母)

感受性豊かな年頃の子供たちに誰とでも明るく関わりを持つことの大事さを伝えたいと思い参加しました。たくさんのヒントをもらいました。  
(教員)

子供のために英語を身近に！と思っていたけれど、自分にもどんな言葉でも話す可能性があるのだと感じた。  
(30代)

ヒッポファミリークラブ  
ふだんの活動  
の様子



## 講演会 講師紹介



11月5日（火）浅野由紀子（言語交流研究所研究員）※写真の左から1番目

親子で遊びながら多言語を楽しむ活動を知り、今は家族5人で参加しています。外国の方が、我が家にホームステイするなんて信じられませんが、一度チャレンジすると、遊びながら口に出していた多言語が、通じることばになっていることが嬉しく、ゲストがわが家の一員になる出会いを子どもたちと一緒に楽しんでいます。“分かる”“話せる”ということばのプロセスを多言語の環境と人との関わりの中からみつけていることがとても面白いです。



11月16日（土）横川乃布子（言語交流研究所研究員）※写真の左から3番目

学生時代に多言語活動に出会い、現在、夫と中3、小6の娘と参加。この環境にいる子どもたちは、遊びながらごく自然に、様々なことばを口にするように。昨年の夏、小5の次女と私は韓国のホームステイで同じ体験を！人間がことばを獲得していくプロセスは何才になっても変わらないんだと実感。中2の長女を観ていると多言語だから、英語がラクに出てくるのかな？！と。多言語の環境が不思議でおもしろいと感じています。

### ヒッポファミリークラブとは

国や人種の違いを超えて、どんなことばを話す人ともコミュニケーションできるようになったら…。そんな思いから1981年、多言語（いくつものことば）を、自然習得（母語の習得プロセス）するヒッポファミリークラブは誕生しました。本来、人間「誰もが」「どんなことばでも」「いくつでも」話せるようになる自然のチカラを持っています。世界の半分以上の国では3つ以上のことばが話されています。ヒッポでは、そんな国々の「多言語の環境」の中で育った赤ちゃんがいつの間にか母語としていくつものことばを習得するのと同じように、家族や、様々な年代の仲間たちと一緒に、楽しみながら多言語を身につけています。

### 「多言語を学ぶ意味」

大和田康之（元在米国際基督教大学財団理事）

私がこれから未来を担う真のリーダーシップについて必要だと思うのは「多言語を話す」というスタンスです。多言語を話すということは、“違ったことば、価値観を持った人を自分の中に受け入れる”、“寛容”ということです。

ヒッポではまず相手の母語を大切にしようというスタンスで多言語を育んでいます。そんな世界が広がっていくことに、ことばを学ぶことの本質的な意味があるのではないのでしょうか。

